令和元年度 藤岡市 人・農地プラン

藤岡南部土地改良地域

市 町 村 名	藤岡市	集 落 / 地 域 名	本郷の一部・神田・矢場地区
当 初 作 成 年 月 日	平成24年10月	分 割 作 成 年 月 日	平成29年 2月
更 新 年 月 日 (1 回 目)	平成30年 3月	更 新 年 月 日 (2 回 目)	平成31年 3月
更 新 年 月 日 (3 回 目)	令和 2年 3月	更 新 年 月 日 (4 回 目)	令和 年 月
更 新 年 月 日 (5 回 目)	令和 年 月	更 新 年 月 日 (6 回 目)	令和 年 月
更 新 年 月 日 (7 回 目)	令和 年 月	更 新 年 月 日 (8 回 目)	令和 年 月

1. 今後の地域の中心となる経営体（担い手）

No.	個人コード	属性	経営体 (氏名)	経営者等の年齢	構成員数	後継者の有無	現状 [令和元年度]		計画 [令和6年度]		農地中間管理事業利用希望の有無	今後の取組内容	取組年度	今後活用が見込まれる施策等					備考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世代人材投資事業	金利軽減措置	経営体育成支援事業	その他国庫事業	その他県単補助事業	
1	2	4 認農・法人	B	44 歳	13 (20) 名	○	麦作	13.87 ha	麦作	114.00 ha	×	5 低コスト化	既	×	○	△	△	△	
2	107	5 認農・農事	C U	81 歳	22 名	○	米麦 露地野菜	16.00 ha	米麦 露地野菜	20.00 ha	○	5 低コスト化	既	×	○	△	△	○	
3	108	1 認農・個人	C V	59 歳	1 名	×	米麦 露地野菜	2.85 ha	米麦 露地野菜	3.30 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
4	109	1 認農・個人	C W	63 歳	1 名	×	米麦 露地野菜	6.44 ha	米麦 露地野菜	10.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
5	110	1 認農・個人	C X	70 歳	1 名	×	施設野菜 米麦	1.54 ha	施設野菜 米麦	1.50 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
6	111	1 認農・個人	C Y	66 歳	1 名	×	米麦 露地野菜	7.55 ha	米麦 露地野菜	10.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
7	112	1 認農・個人	C Z	66 歳	2 名	×	養豚	300.00 頭	養豚	350.00 頭	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
8	113	1 認農・個人	D A	50 歳	1 名	×	露地野菜 米麦	3.96 ha	露地野菜 米麦	4.50 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
9	125	1 認農・個人	D J - 1	65 歳	2 名	○	施設野菜 米麦	9.14 ha	施設野菜 米麦	12.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
10	126	3 認農・後継	D J - 2	35 歳	1 名	×	施設野菜 米麦	— ha	施設野菜 米麦	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
11	129	1 認農・個人	D M	80 歳	2 名	×	米麦 露地野菜	5.78 ha	米麦 露地野菜	5.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
12	137	4 認農・法人	D R	52 歳	1 (3) 名	○	施設野菜 飼料作物	5.20 ha	施設野菜 飼料作物	5.00 ha	○	5 低コスト化	既	×	○	○	○	○	
13	173	7 認就	E Y	30 歳	2 名	×	露地野菜 米麦	0.50 ha	露地野菜 米麦	1.30 ha	○	1 新規就農	27	○	×	○	△	○	

No.	個人コード	属性	経営体 (氏名)	経営者等の年齢	構成員数	後継者の有無	現状 [令和元年度]		計画 [令和6年度]		農地中間管理事業利用希望の有無	今後の取組内容	取組年度	今後活用が見込まれる施策等					備考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世代人材投資事業	金利軽減措置	経営体育成支援事業	その他国庫事業	その他県単補助事業	
14	189	12 事業担い手	F O	75 歳	1 名	×	米麦 露地野菜	0.39 ha	米麦 露地野菜	1.39 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
15	190	12 事業担い手	F P	— 歳	1 名	×	露地野菜	0.00 ha	露地野菜	1.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
16	191	12 事業担い手	F Q	75 歳	1 名	×	米麦	3.30 ha	米麦	5.30 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
17	192	12 事業担い手	F R	58 歳	1 名	×	施設野菜	0.31 ha	施設野菜	0.31 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	△	△	△	
18	193	12 事業担い手	F S	76 歳	1 名	×	米麦 露地野菜	2.60 ha	米麦 露地野菜	5.60 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
19	194	12 事業担い手	F T	61 歳	1 名	×	米麦	1.50 ha	米麦	2.10 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
20	206	1 認農・個人	G F	52 歳	2 名	×	米麦 露地野菜	1.97 ha	米麦 露地野菜	1.97 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	△	△	△	

【記載上の注意】

- ※ 「今後の地域の中心となる経営体」には、規模拡大による経営の効率化、6次産業化による農畜産物の高付加価値化、経営の多角化・複合化、後継者の育成など、地域農業の発展を牽引する経営体や、将来こうした役割を担うであろう新規就農者等を経営体の意向も踏まえた上で記載する。
- ※ 「属性」には、認定農業者は「認農」と記載し、個人・法人の別、共同経営者・後継者の別等を記載。また、農事組合法人は「農事」、集落営農組織は「集営」、認定新規就農者は「認就」、就農後に認定農業者を目指してもらう者を「育成対象」と記載。年齢等により認定農業者の更新を行わなかったが、今後技術の承継を行うであろう者を「目標達成」と記載。
- ※ 「計画」欄は、おおむね5年後の経営内容・経営規模を記載（以下「計画」欄についても同じ）。
- ※ 「今後の取組内容」欄は、経営の維持・発展のために今後取り組もうとする内容を記載。
- ※ 「取組年度」欄は、取組開始年度を記載するが、以前より既に取り組んでいる内容については「既」と記載する。

2. 1から見た地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている

担い手はいるが十分ではない

担い手がいない

3. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	
担い手に集積・集約化する	○	<p>藤岡南部土地改良事業が終了したが、耕作農地が分散している状況であるため集約化を図っていく。担い手間の座談会の中ですぐにでも集約化をしたいという意見があり、来年度に集約化のための座談会を設けることとなった。まずは市がたたき台の地図を作成し、修正していく形で進める方針である。</p> <p>中心経営体は高齢化しており、今後のことを考えると若手が不足している状況である。</p> <p>定年退職者を新規就農者として誘導・定着させるために、わずかでも助成金を交付するような政策が必要ではないか。</p> <p>技術的な面での指導センター等のサポートがほしい。</p> <p>米麦経営の場合、農業用機械のリース事業等がないため、新規の就農がかなり難しいと感じている。</p>
担い手の分散錯圃を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に記載]	○	

4. 3についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	<p>機構集積協力金事業も年々要件が厳しくなり、額も減っているため、魅力を感じていない。</p> <p>基盤強化法での利用権設定を農地中間管理事業への乗換えを行っている。平成30～令和2年までで多くが期間の満了となるので、そのタイミングでの乗換えを進めていくが、交付金の対象にならないため、進めづらい</p> <p>ただし、乗換えを進める上で、顔の見える関係でないと土地の貸し借りは現実的に難しいと感じる。</p> <p>今後、地域で集約していく上で、中間管理事業を間に入れて行うほうがやりやすいと考えられるため、積極的に活用していく方針。</p>
農業をリタイヤ・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に記載]	○	

5. 地域の標準賃料について

標準賃料については、田は7000円/10aだが、近年水利費が減少したため5000円/10aにしたいという意見があった。畑は使用貸借が多い。他の地域も水利費が下がり賃料が下がっているため、今後新規参入者を確保するためにも賃料を下げしてほしいとのことであった。

6. 近い将来、農地の出し手となる者と農地

No.	個人コード	農地の出し手となる 農業者	地区別	現状 [令和元年度]			貸借対象 農地面積	今後 [令和6年度]		農地中間管理機構への貸付等の有無		備考
				所有農地面積	経営農地面積	貸付済農地面積		経営農地面積		農地面積	貸付 時期	
1	39	A M	美九里	0.18 ha	0.18 ha	0.00 ha	0.08 ha	0.10 ha	○	0.0808 ha	随時	
2	45	A S	美九里	0.61 ha	0.61 ha	0.00 ha	0.18 ha	0.43 ha	○	0.1753 ha	随時	
3	60	B H	美九里	0.72 ha	0.06 ha	0.66 ha	0.06 ha	0.00 ha	○	0.0632 ha	随時	
4	61	B I	美九里	1.49 ha	1.06 ha	0.42 ha	0.23 ha	0.84 ha	○	0.2288 ha	随時	
5	62	B J	美九里	0.36 ha	0.16 ha	0.20 ha	0.03 ha	0.13 ha	○	0.0267 ha	随時	
6	157	F B	美九里	0.70 ha	0.70 ha	0.00 ha	0.70 ha	0.00 ha	×	0.7003 ha	すぐに買したい	
7	158	F C	美九里	1.35 ha	0.38 ha	0.97 ha	0.38 ha	0.00 ha	×	0.3758 ha	すぐに買したい	
8	159	F D	美九里	1.26 ha	1.26 ha	0.00 ha	1.26 ha	0.00 ha	×	1.2571 ha	すぐに買したい	
9	160	F E	美九里	1.15 ha	1.15 ha	0.00 ha	1.15 ha	0.00 ha	×	1.1467 ha	すぐに買したい	
10	161	F F	美九里	1.20 ha	1.20 ha	0.00 ha	1.20 ha	0.00 ha	×	1.2035 ha	2～3年後	
	203	G W	美九里	0.19 ha	0.19 ha	0.00 ha	0.19 ha	0.00 ha	○	0.1858 ha	随時	

7. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方（地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者も含めて）		
取組事項	対応	コメント
生產品目の明確化		<p>土地改良事業完了後、数年経過した段階では、収量の差異は少なくなってきた。土地の性質や米麦の品質自体も均等になりつつあるが、あと数年はかかると思われる。</p> <p>ただし、農地に大きな高低差があり、下の田に水がたまりやすいなど、土地改良事業による悪い影響が出ている部分がある。また、用排水路が深すぎて、土手の草刈りが難しい箇所が多くある。草刈機が届かずに水路の上に草がかぶってしまい、排水に支障があるケースも見受けられる。シルバー人材センター等を活用して農地の維持を図っていく。</p> <p>当該地域では、米麦を経営作物としている生産者が多いため、国の施策が頼りになっている。</p> <p>田・畑・作物のそれぞれの特性をわかっている人がいる内に、出来るだけ若い人たちに技術を継承していきたい。就農に興味のある若い世代もいるようだが、農業経営は不安要素が多く、なかなか決断できない環境にある様子。</p> <p>農地の集約化への話し合いを進めることで、経営しやすい環境ができれば、高齢での耕作や経営移譲がしやすくなるため、今後積極的に行って行く予定である。</p>
複合化	○	
6次産業化		
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[]		

8. 今後の地域維持のあり方

土地の貸借は概ね順調に進んでいるが、土地改良事業の工区の関係で分散錯圃が多く存在している。今後はその分散圃の解消が農地の維持には必要になってくる。

貸し手側からすると、正直農地を返却されても困るので、継続して貸借が出来るように担い手の確保をしてもらいたい。それに加えて、地元でも担い手の掘り起こしを行っていきたい。

※ 今後、農地を含め地域の維持をおこなうため、地域の話し合いにより判明した問題点・地域維持のあり方をまとめる。